

国会闘争速報

2006年11月17日 第24号

発行：全国労組交流センター

東京都台東区元浅草 2-4-10 五宝堂・伊藤ビル5F

TEL 03-3845-7461 FAX 03-3845-7463

kokkaitousou@yahoo.co.jp にアドレスを送ってください。連日、「国会闘争速報」をメールします。



安倍の暴挙と腐敗に弾劾の嵐！

16日は朝から怒りの全国結集状態だ。ハリストには7名以上が決起し、そのまわりを250名が座り込んでいる。北教組も増員で闘った。全国連絡会の座

り込みもにぎわっている。日教組、全教も座り込んで集会。全体で500名近い。誰もが前日の強行採決に対して怒り、暴走に歯止めをかけようと声をから

国会に5000人の怒り



してアピールした。しかし安倍政権は13時から衆院本会議を開き、野党出席拒否の中、採決を強行した。その報を聞き、がく然とするもの、座りこんで頭を抱えるもの、号泣する人もいる。しかしそれはすぐに怒りに変わっていった。ハリスト者のSさんは「政治を誰のためにやっているのか。この恨みは必ず晴らす」と宣言。急

きよ駆けつけた沖縄高教組は「強行突破は県民への侮辱だ。絶対に許せない」と発言。被処分者のNさんは「これが民主国家なのか。独裁者が勝手にやる

全国連絡会が引き続き集会を開いた。集会后2000人で首相官邸前に移動しシュプレヒコールを叩きつけた。

安部の暴挙が満天下に暴かれた。怒りは渦巻いている。闘いはこれからだ。職場や地域から闘いを組織し、教基法改悪案を安倍政権もろとも粉碎しよう。

ことにはあたり前か」と弾劾した。人波が途切れることなく国会前におしよせた。歩道はすし詰り状態だ。17時から「ヒューマン・チェーン」が始まった。その数5000人。議員、市民運動家、教育労働者などが次々マイクを握って弾劾した。みんな黙って聞いているわけではない。怒りのあまり、国会に向かって叫ぶ人があちこちにいる。

★★★★行動予定★★★★

- 国会前集会 (主催・全国連絡会) 21(火) 18～19時 衆院第2議員会館前
- やめろ！教育基本法改悪 つぶせ！共謀罪 11・23 ジョイント行動 (銀座デモ) とき：11月23日 (木、休日) 午後1時半 ところ：京橋プラザ区民館ホール 共催：都教委包囲首都圏ネットワーク (090-5415-9194)、破防法・組対法に反対する共同行動 (03-3207-1273) ※その他の行動は決まり次第お伝えします。



前 言 の 発 言

11月16日

●北教組・Sさん

われわれの悔しい思いを、今度は参議院の段階で、意思を結集して闘っていかなければいけない。本質をまったく議論をしない教育基本法の改正、これを私たちは許すことはできない。

北教組はただちに抗議の声明を、全国各地の組合員に発する準備をしています。11月25日には札幌で1万人集会を持ちます。参議院段階では絶対に通さないという意思統一を行うものです。また、日教組は、12月8日にも大集会を計画しているということですので。皆さん、地域での取り組みももう一度強化していきましょう。

安倍が強行採決を指示

●神奈川三浦半島教組・Yさん 彼らにとつて、彼らがめざしている「戦争ができる国家」づくりにとつて、まさに私たちが邪魔だから、私たち教職員組合を最終的に排除するためにやってきているんだ、教憲法改悪はそういう攻撃の性格を持っているんだということを確認し、怒りをもってこれを粉砕していこう。

衆議院が通ったぐらいで、日和つてはいけません。われわれの周りにもつともつと声をかけ、そして動こうとしない既成の組合指導部がいたらそれを突き上げ、圧倒的な力で登場していく必要がある。それができるのは、われわれ現場の労働組合員だけです。

●「日の丸・君が代」不当処分撤回・被処分者の会・Kさん 今の国会の状況、彼らのやり口こそ、「美しい国」どころか、本当に汚いじやありませんか。いじめをなくすと言いつつ、この東京においては、教職員を大量に処分している。彼らこそいじめている張本人じゃないですか。

19日には、沖縄で県知事選挙が行われます。教育基本法改悪反対を正面から掲げている糸数慶子さんを、なんとも不当させましょう。知人がいる人はぜひ、電話をすぐにかけて、沖縄県知事選の勝利を出発点にして、教育基本法の改悪法案を廃案に追い込んでいきましょう。

「任期中に改憲をやりたい」と

政府・与党は、15日の特別委採決の直前まで、教憲法改悪への高まる怒りの声に追いつめられてぐらぐらになっていました。それを衆院採決強行に突っ走らせたのは、安倍首相のじきじきの指示

アに「自分の任期中に改憲を目指す。」「自民党総裁の任期は1期3年、そして2期までしか務められない。この期間に（改憲を）政治スケジュールに載せたい」（14日、

だったと報道されています。安倍首相はなぜ、ここまで教憲法改悪に執念を燃やすのか。一つは、憲法9条を変えて戦争に突き進もうとしているからです。このかん安倍は海外のメディア

米紙ワシントン・ポストのインタビュウに答えて）が本音です。その手始めが、現憲法とセットで制定された（準憲法と言われた）教育基本法の改悪なのです。いま一つは、若者を戦場に駆り

沖教組と沖高教組が声明

沖教組と沖縄高教組は15日、特別委での採決強行に先立ち、緊急声明を発表しました。

記者会見で沖教組の大浜敏夫委員長は、「改正案には『愛国心』や『公共の精神』が盛り込まれる。先の大戦で苦い経験をした沖縄が許してはならない」と強調。高教組の松田寛委員長も、沖縄戦での鉄血勤皇隊編成の際に生徒の名簿を行政が軍に渡した事例をあげ、「行政が教育に関与することの恐ろしさを沖縄は体験した」と提起。ともに「一から議論をやり直すべきだ」「参院段階での運動を強化しよう」と訴えました。（沖縄タイムス）

立てるためには日教組が邪魔だ、労働組合をつぶさなければ戦争の道に進めないと思っているからです。教憲法改悪の直接の狙いは、この日教組つぶし（それに始まる労働組合つぶし）です。共謀罪導入の狙いも同じ。最後は戦争に公然と反対する者が誰もいなくなることを望みなのです。

だが、強行採決は、私たち労働者の怒りに火をつけた。「日教組壊滅」を叫ぶ森・中川や安倍に、闘う日教組の再生をたたきつけよう。参院で必ず廃案にし、安倍政権を倒すまで闘おう。